



<発行>
 南部合唱団
 連絡先：〒214-0022
 川崎市多摩区堰
 1-22-1-416
 TEL:044-833-6220

前に進むために、 今後も歌い続けて いきましょー！

団長 大井 かつ江

コロナ禍の下、一年の延期を余儀なくされた「日本のうたごえ祭典」が、感染状況が少し落ち着いてきた中で、12月3日～5日、広島HBGホール、アステールプラザをメイン会場に、のべ7千人の参加で開催されました。

「青い空は」、未来を担う子どもたちの「アオギリのうた」、オーケストラとうたう「大地讃頌」や「アメイジンググレイス」など、平和の思いを歌い交わす祭典でした。ピースウェーブコンサート開幕の全国合同「リナッシェロ・リナッシェライ」は、コロナ禍下、互いに思いやる心で繋ぎあつてきたこの二年間を象徴するように、歌える喜び、ともに時

間を共有する喜びに溢れた瞬間でした。南部合唱団は、4日のコンサートヒロシマIのオープニング「生命のうた」に歌って参加しました。その後、リニューアルされた原爆資料館の見学や、平和公園の散策など

おこないました。そして祭典最終日、5日の合唱発表会・一般B部門に参加。「日本国憲法第九条」[Hard Way]を演奏しました。

10月末の総選挙で、自民党が議席を減らしたとはいえ、改憲勢力が過半数を占める国会で、ますます憲法改悪の危機を迎える情勢の中で、改憲を許さない

思いを伝えること、そしてコロナ禍の中で、きらめくな！と、自身と全てのひとに勇気を与える歌としてこの2曲を選曲しました。その思いは伝わったのではないかと思います。

この2年、レッスンの休止や様々な催し物の中止、なにより南部合唱団が一番大切にしてきた演奏の場を殆ど

失いました。コロナ禍の中で、合唱団に出でこれなくなつた団員もいます。少しづつ日常をとりもどし、演奏の場も増やしながら、わたしたちはうたごえ届けてゆきます。運動をとめず、前に進むために今後も歌い続けていきたいと思ひます。ともにがんばりましょー！

